

最優秀

## かつこいいいお父さん

新見市立新見第一中学校

三年 植田 滯

私の父は消防士です。父はおもしろくて、どこか抜けているけれど、仕事となると人が変わったようにかつこよく見えます。私が

「何で消防士になろうと思ったん。」  
と、聞くと、

「かつこよくて小さい時から夢だったから。」  
と答えました。

消防士の主な仕事は、消防車で火災現場に駆けつけ、消火を行う『消火活動』、救急車で急病人やけが人を病院に搬送する『救急活動』、事故や災害で脱出できなくなった人を救助する『救助活動』という三つの仕事があるそうです。

火災のお知らせの放送が鳴ると、休みの日でも関係なく、父はすぐに家を出て仕事に向かいます。私はその時、

「いつてらつしゃい。気をつけてね。」

と、いつも言うようにしています。消防士は危ない場所に行くことが多いので、無事に帰ってきてほしいという思いで、その言葉はかかさず言います。だから、笑顔でただい

まと帰ってくると、とてもうれしくなります。

平成三十年、七月に突如襲ってきた、西日本豪雨。その日は私の誕生日でした。もちろん父は仕事に行かなければいけないし、私の住んでいる新見市には、避難指示が出されました。私はいつもより豪華な夜ご飯を残し、誕生日ケーキも食べず、おびえながら避難の準備にとりかかりました。あの時は本当に怖かったのを今でも強く覚えています。私は父のことが心配で、夜なかなか寝つくことができませんでした。でも、一番怖いと思っているのは、行方不明の人を探しに行ったり、救助活動をしたりする父だったと思います。

お父さん大丈夫かなとソワソワしながら目覚めた次の日、私は家に無事帰ることができました。すると、いつものように

「ただいま。」

と、家に帰ってくる父を見られてとてもうれしかったです。疲れているはずなのに、帰ってから私達兄弟四人と遊んでくれたり、笑わせてくれたり、現場のことについてたくさん話してくれたりしました。毎年のように家族みんなで誕生日会をできなかったけれど、これから絶対に忘れることのない十歳の誕生日になりました。

ちょうど一年前の夏休み、私の家族はみんなコロナに感染してしまいました。その時、弟が高熱で熱性痙攣を起こしました。父はすぐにソファから立ちあがると、弟の対応

をしに行きました。数分前まで楽しくお話していた父とは一変し、真面目な表情をしていました。実際に痙攣を見たのは初めてだったから少し怖くなって、私は別の部屋に移動してしまいました。私と妹は頭が真っ白で、ずっとパニックだったけれど、

「もう大丈夫だよ。」

と、父が扉を開けて部屋に入ってくるのが見えると、弟が大丈夫だった、良かったという安心感でいっぱいでした。父が消防士でなければ、こんなに冷静に対応できていなかったし、私達家族も不安が大きかったと思います。

父は休みの日、家のことをたくさんしてくれます。ご飯を作ったり、庭の草刈りをしたり、掃除をしたり。疲れて本当は寝たいはずなのに、何でそんなにしてくれるんだろうと、私はいつも疑問に思います。だから、課題が終わっている時には私も手伝いをします。私が、

「お父さん、代わるよ。」

と、言うのと、

「いいよ。お父さんがやるから。」

と、返されることが多いです。でもよく思い返すと、父が、「夜中の二時に倉敷まで行ってきた。」

と、言っていたのを思い出し、

「やつぱりやる。代わって。」

と代わってもらいます。代わるとすぐに眠りにつく父を見ると、（ほら眠いんじゃない）という気持ちと、（いつもあり

がとう）という二つの気持ちが出てきます。雨が降っていると学校まで送り迎えしてくれるし、私が友達と遊ぶときもいつも父が送ってくれます。

どんなときも優しく、ときには厳しく怒ってくれて、毎日おもしろいお父さんのことが私は大好きです。私は将来、お父さんみたいにかっこよくて、誰からも頼られるような大人になりたいと思います。そしていつか、今までの恩返しを、お父さんにできたらなと思います。これからのんなことがあるかわからないけど、命だけは大切にがんばってほしいです。なぜならお父さんは、私の一番のヒーローだから。普段恥ずかしくてなかなか言えないけど、

お父さん、いつもありがとう。